

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 2月号

2020年2月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：崎濱 智子（勝山病院）

MSW ニュースは毎月1日
県医療ソーシャルワーカー協会
ホームページに更新掲載されています

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

☆CONTENTS☆

研修参加報告.....	P2~4
トピックス.....	P4~5
部会からのお知らせ.....	P5~6
1月理事運営会議録.....	P6~8

研修参加報告

令和元年度第2回がん相談員実務者研修会「がんと就労」参加報告

琉球大学医学部附属病院 がん相談支援センター

大久保 礼子

がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターでは、毎年数回、連携拠点病院のがん相談員（ソーシャルワーカー、看護師）が集い、研修会を企画・開催しています。去る 12/14(土)に、「がんと就労」をテーマに開催しました。今回は、がんの治療に伴う就労への影響、就労支援の必要性を知り、医療機関でできる支援や連携先について学ぶことが研修の目的でした。

講演では、宮里浩先生（那覇市立病院 外科総括科部長）から、がんに関する一般知識や、大腸がんを例に、治療の流れと治療による身体的、生活変化と就労支援に必要なポイントを具体的にお示しいただきました。治療が外来化、長期化する中で、経過にあわせた支援が必要であることがとてもよく理解できる内容でした。

ハローワーク那覇からは、患者さんの治療状況、経済状況、これまでの職歴や獲得したスキルといった背景に応じて就転職を支援することはもちろん、すぐに就職が難しい場合には生活保護課等の関係機関ともつながりを持ちながら支援していることの発表がありました。産業保健総合支援センターからは、がんに限らず、慢性疾患に関する治療を続けながら職場復帰や就労を続けるための支援について、事例も含めた取り組み紹介がありました。

意見交換の中で就職支援ナビゲーターから、仕事を頑張りたい方の中には生活に逼迫していればいるほど、仕事につくこと＝お金を稼ぐことを急ぐあまり、窓口で正確な病状をお話しされないことがあるため、「本人は大丈夫というが体調は良くなさそうだし、支援をするうえでどこまで背中を押していいか迷う」という意見がありました。そこで医療機関と連携し、本人の治療状況と今後の見通し、場合によっては予後について、本人へどのように知らされているのかを含めて共有できると、頑張りたい気持ちを受け止めつつ、より本人の状態にあった就労支援につながるという内容でした。この意見から、就労支援において、支援者同士のネットワークの重要性や医療機関でやるべきこと、医療スタッフが関わる意味に改めて気付くことができました。

終了後には、参加者から「病院の相談員やスタッフがきっかけで、就労の継続や手当受給につながると感じた。」「職場へ持ち帰り、外来看護師が患者の全体像をアセスメントして問題点を抽出して MSW へつなげる実践をしていきたい。」といった感想が寄せられました。

「働かないと生活できない。だけど治療で働けない。」といった焦りや不安を抱えている患者さんを潜在化させず、その時期に合わせた支援がどの医療機関でも展開できるよう、今後も学習の機会を持てるといいなと思います。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

2019(令和元)年度 沖縄県入退院支援連携デザイン事業<多職種研修>

地域包括ケアシステムに置ける介護老人保健施設の役割

～機能の違いによる病院・地域との協働～

嶺井第一病院 又吉 恵理

去った1月16日(木)に宜野湾市マリン支援センターにて、上記の研修会が行われました。

今回の研修は、老健施設と病院・地域との協働について学ぶことを目的としています。老健施設の相談員やケアマネージャー、病院のMSWや医師・看護師など、離島を含む県内全域から多くの参加がありました。

研修の始めには、県高齢者介護福祉課 担当者より、入退院支援連携に関する基本指針についての説明があり、続いて高知県医療ソーシャルワーカー協会会長で老健施設リゾートヒル やわらぎ 施設長 中本雅彦氏の講演がありました。研修の後半は、「老健施設の役割とは」をテーマにワールド・カフェが行われ、ざっくばらんな話し合いが行われました。

今回の研修で特に印象に残ったことは、「老健施設は在宅復帰だけではなく、在宅生活支援として多様なニーズにこたえる『大規模多機能施設』である。」という中本氏のお話でした。私自身「老健施設＝在宅復帰の施設」という印象を持っていました。改めて、老健施設の機能・役割について理解するきっかけとなりました。しかし、ワールド・カフェでは、老健の相談員から「老健は多忙。」「求められる役割は大きい、人員不足で負担が大きい。」などの声が聞かれ、老健が抱える課題についても知ることができました。

中本氏によると、高知県は山間部が多いという地理的要因と、全国と比較しても高齢化率・貧困率が高く、少子高齢多死により人口減が進んでいるとのこと。限られた医療・介護資源の中で「顔の見える連携」を目指し、ICTの活用にも取り組んでいるとの紹介がありました。沖縄県でも、高齢化率の上昇とともに高齢者夫婦のみや、高齢者の単身世帯の増加が懸念されています。離島はもちろん、本島内でも医療・介護資源の地域格差は大きな課題です。今ある課題も勿論ですが、20年後、30年後を見据えての取り組みを、今から始めていく必要があるのだと感じました。

「多職種コンソーシアム実践研修会」参加報告

沖縄協同病院 新垣 哲治

令和2年1月18日(土)沖縄県総合福祉センターゆいホールで「沖縄県多職種連携ケアマネジメント基盤強化促進事業：多職種コンソーシアム実践研修会」が行われました(主催：沖縄県子ども生活福祉部 高齢者福祉介護課 運営：沖縄県理学療法士協会)。参加者は医療ソーシャルワーカーの他にケアマネージャー、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士、薬剤師が協会団体として参加しました。

「疾患別アプローチによるケアマネジメントの有効性とICFモデルに照らした地域ケア個別会議の専門職の役割と機能について」の講演と模擬事例の通した専門職団体別のグループ討議を行いました。疾患の特性から見

通した改善の可能性や悪化のリスク、その予防策を各専門職の「共通化された実践知」から標準化した助言(明文化)として意見を交わしました。さらに専門職から専門職へ質問するなど相乗効果も生まれた活発なグループ討議でした。

今は個人の知識や経験だけではなく、専門職の専門性の普遍化・標準化を目指し誰もが自らの専門性を活かした助言(支援)が求められています。あらためてですが、職能団体としてすべての会員が専門性を発揮できるような環境を作っていくことと、加えて会員の皆様へも今後企画されている研修へ積極的参加して頂ければと思います。皆で学んでいきましょう。

在宅医療・介護連携 報告

※2月報告は休載します。

自主勉強会報告

※1月の「めだかの学校」「めだかのホームルーム」「めだかの放課後」勉強会開催はありませんでした。

トピックス

『医師らと価値観共有を』

沖縄タイムス暮らし相談(医療)
2020年1月20日(月)掲載済み
沖縄県医療ソーシャルワーカー協会
長 原野

病気やケガを抱える人は「治療をして退院すること」を目的に入院します。入院するには炊事洗濯、掃除などの家事や育児や介護、仕事や学校や自治会活動、「もあい」などの「日常生活」から離れる必要があります。入院中は治療が優先され日常生活はちょっと横に置いておいて、となります。入院は特殊で非日常的ですが患者という役割に順応し「治療をすること」が目的になってしまいます。日常生活に戻るために必要な事を考えたり、決めたりすることができにくくなる場合があります。そして「治療が終了しました」と主治医に言われた時「ちょっと待ってよ、退院しても大丈夫かな」と不安に思うかも知れません。そのまま退院して日常生活に戻る苦労を感じたことがある方もいるのではないのでしょうか？

私は患者さんに伺います。「ご気分はいかがですか？入院していて、生活のことで何か気がかりなことはありませんか？」と。患者さんに退院して生活しているご自身を想像してもらえるように、入院の目的が「退院すること」であり、治療は手段であることを思い出してもらえるように。また、医師や看護師などと患者さんの日常生活や価値観を共有することで治療方針やケアの方法の選択にも影響がでます。家屋環境や家族構成、経済状況、これまでどのような生活をしてきて入院によってどのような変化があるのか、退院したらどのような生活をしたいのか。それは千差万別だからです。

生活の相談をするという敷居が高いと感じるかも知れませんが、「気になっていることを尋ねる」「声をかけられたら話をしてみる」と言うくらいの気軽な気持ちで考えて頂ければと思います。入院中だけでなく、外来通院の場合でも主治医や看護師さんに声をかけて頂ければお話を伺います。

* 2019 年度、毎月第3月曜日の沖縄タイムス「くらし相談室(医療)」欄に掲載されます。

皆さんご覧になってください。

新入会員紹介

2月は休載します。

部会からのお知らせ

2月研修部だより

中堅者研修(概ね5年以上)

テーマ	インテグレイティブ・ショートタイム・トリートメント ～ 統合的短期型支援(ISTT)を学ぶ ～
日時	2020年2月8日(土) 10:00～16:30(受付9:30～)
会場	ハートライフ病院 2F講堂
参加費	会員:3,000円 非会員:6,000円
問い合わせ	沖縄協同病院 長

めだかの学校(おおむね経験年数3年未満)

テーマ	事例検討会 提供者:西原裕希(宜野湾記念病院) バイザー:伊禮智則(那覇市立病院)
日時	2月14日(金) 19:00～
会場	ハートライフ病院
参加費	無料
問い合わせ	大浜第二病院 謝識

めだかのホームルーム(おおむね経験年数3年以上)

テーマ	事例検討会 ※調整が入る可能性あり
日時	3月4日(水) 19:00～
会場	嶺井第一病院
参加費	無料(飲食代100円)
問い合わせ	沖縄協同病院 地域連携課 松永

めだかの放課後(経験年数5年以上)

テーマ	疾患別・科別のMSW業務整理(教育的な視点も含め)の検討
日時	調整中
会場	中頭病院
参加費	無料(飲食代200円)
問い合わせ	大浜第一病院 医療福祉課 當銘

OGSV

テーマ	内容については調整
日時	2月12日(水)19:00～20:00
会場	那覇市立病院
参加費	無料
問い合わせ	沖縄国際大学 樋口

発行 2020年1月20日
研修部 香村真範

1 月理事運営会議録

日時：2020年1月21日(月) 19:00～20:30
場所：県総合福祉センター

【参加者】 樋口会長、新垣副会長、當銘事務局長(司会)、長、伊禮、大久保、小橋川、高江洲、
香村(書記)、

【欠席者】 又吉副会長、秦、山城、安慶名、石郷岡、奥平

1. 各部報告

〔研修部〕 香村理事、長理事 ※別紙資料「2月研修部だより」

1) 中堅者研修

日時：2020年2月8日(土) 10時～16時30分(受付9:30～)

場所：ハートライフ病院 2階講堂

申込：本日時点30名申込あり

その他：前日2月7日（金）の19時頃より講師と打合せを予定）
謝金一人5万円（例年通り）当日現金支払い 領収書と源泉徴収も当日用意する
申込未の施設へ個別に電話にて促す

2) めだかの学校

日時：2月14日（金）19時～ 場所：ハートライフ病院
内容：事例検討会 提供者：西原裕希（宜野湾記念病院） バイザー：伊禮智則（那覇市立病院）
その他：3月は次年度活動計画について
次年度はリーダーを新たに選出する予定

3) めだかのHR

日時：3月4日（水）事例検討会 場所：嶺井第一病院
→調整が入る可能性あり。

4) めだかの放課後

日時：調整中 場所：中頭病院
内容：疾患別・科（病棟）別のMSW業務整理。退院支援を中心に、MSWあるある等を持ち寄って確認し、支援の漏れを無くすことも目的とする。また、引き継ぎや新人MSWへの教育的な視点も加味する。他職種へ、MSWの専門性をきちんと伝えていけることも必要。

5) OGSV

日時：2月12日（水）19:00～20:00 場所：那覇市立病院
内容：未定

〔広報部〕小橋川理事

担当：勝山病院 崎濱さん
タイムス記事（第三月曜日掲載） 2月 大久保、3月 小橋川
はいさいワーク：国立大学法人琉球大学医学部附属病院 救急部
令和2年度 医療コーディネーター・ソーシャルワーカー（急募）2名

〔社会活動部〕

なし

〔その他〕

- 1) 那覇市チャージョウ課 認定グループとのミーティング報告（伊禮理事）
1月27日（月）担当者ミーティングを予定
3月4日18:00～おもとの杜ふれあいセンターにて、認定グループと当協会員のこれまでの振り返りを予定。
- 2) 多職種コンソーシアム実践研修会
1月18日（土）に開催され参加。今回は離島の居宅支援ケースを公開事例検討会のような形で行われた。多職種の専門性の理解と、MSWの専門性の確立と発信が重要だと再認識する会となった。
- 3) デザイン研修
 - ・今年度末に、指針は策定し次年度は広報を行う予定。
 - ・多職種研修：1月16日（木）老健協との合同開催。時間が短く内容が散漫になってしまったとの講師談もあったが、支援相談員にソーシャルワーカーが定着する必要があると実感する内容だった。次年度も合同に研修等を開催できるよう継続していく。

- ・専門研修：2月26日 19:00～ 場所：沖縄県総合福祉センター東棟 403 研修室
内容：「ヴァルネラビリティ（社会的な脆弱性を有する人）への入退院支援のあり方」
近日中に案内と申込用紙を送付予定

- 4) 第8回沖縄県ソーシャルワーク学会・社会福祉公開セミナー
日時：令和2年2月22日（土） 場所：沖縄大学
チケットを当協会分として30枚購入済。

その他)

- ・ライブ映像（アプリ）活用の検討
会議（理事会含）や研修等での導入を今後検討していく。CM協会が活用中、社福会も導入予定。
- ・ハート相談センター：今後の相談体制について協議中
 - ・1月25日ハンセン病問題ネットワーク沖縄（総会） 県立図書館3F 13:30～
 - ・回復者団体は、ゆうな協会へSWを設置してほしいと県へ要望書を提出したが回答がなく改めて行う予定
 - ・県は各病院へアンケート中（回復者、高齢者の治療受け入れ可能内容等について）
 - ・4月に弁護士・厚労省が来県予定
 - ・3月1日ハンセン病全国担当者会議：樋口参加して県内の状況を報告予定
 - ・那覇市医師会：ハンセン病について、医療的な要素と権利擁護事業の2本立てで研修を予定

〔事務局〕

1名の退会

次回理事会：2020年2月17日（月）19:00～ 司会：樋口 書記：長 連絡：香村

☆ 編集後記 ☆

あっ！という間に、旧正月も過ぎ、北部の山並みが桜色から新緑の芽が顔をのぞかせています。

お忙しいなか、期日まで原稿をお届けいただき、ありがとうございました。

皆さんの貴重な記事の内容を、日々の支援に活用出来るようにがんばります。

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会ホームページ <http://www.msw-oaswhs.jp/>